

宮 崎 県 感 染 症 週 報

宮崎県薬務感染症対策課・宮崎県衛生環境研究所

令和7年第33週 (ARIのみ第32週) の発生動向

□ 全数報告の感染症 (33 週までに新たに届出のあったもの)

- 1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 1 例。
 3 類感染症：報告なし。4 類感染症：日本紅斑熱 2 例。
 5 類感染症：侵襲性インフルエンザ菌感染症 1 例、水痘(入院例) 1 例、梅毒 3 例、百日咳 21 例。

	疾患名	報告 保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	20歳代	男	肺結核	咳、発熱
4類	日本紅斑熱	宮崎市	60歳代	女	—	発熱、頭痛、刺し口、発疹、肝機能異常
			80歳代	女	—	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常、その他
5類	侵襲性インフルエンザ菌 感染症	小林	90歳代	男	—	発熱、肺炎、菌血症
	水痘(入院例)	宮崎市	70歳代	男	臨床診断例	発熱、発疹
	梅毒	宮崎市	10歳代	女	早期顕症梅毒Ⅱ期	鼠径部リンパ節腫脹、扁平コンジローマ
			30歳代	男	早期顕症梅毒Ⅱ期	梅毒性バラ疹
		都城	40歳代	男	早期顕症梅毒Ⅰ期	初期硬結

	疾患名	報告 保健所	報告数	年齢群						症状
				0～4歳	5～9歳	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	
5類	百日咳	宮崎市	11例			7	3		1	持続する咳、夜間の咳き込み、 ウーブ、嘔吐、肺炎、その他
		都城	3例	1	1			1		
		延岡	2例			2				
		小林	2例			2				
		高鍋	2例		1	1				
		中央	1例			1				

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

・第 33 週の定点医療機関からの報告総数(急性呼吸器感染症除く)は 552 人(定点当たり 27.0)で、前週比 77%と減少した。なお、前週に比べ増加した主な疾患は特になく、減少した主な疾患は R S ウイルス感染症、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎及びヘルパンギーナであった。

また、第 32 週の急性呼吸器感染症の報告総数は 1,521 人(定点当たり 54.3)で、前週比 93%と減少した。

【新型コロナウイルス感染症】

報告数は 398 人(14.7)で、前週比 100%と横ばいであった。年齢群別は 60 歳以上が全体の約 3 割、20 歳未満が全体の約 2 割を占めた。

【伝染性紅斑】

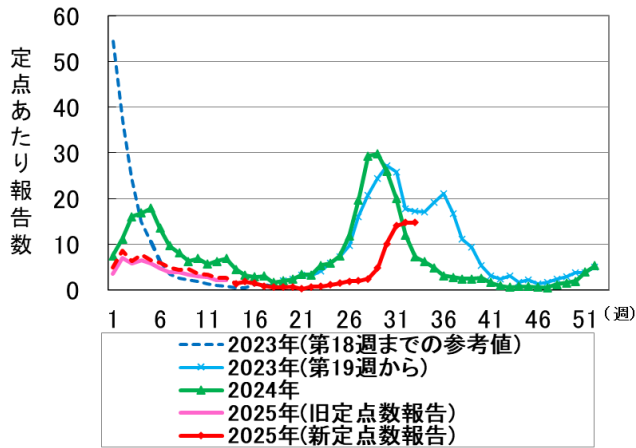
報告数は 27 人(1.9)で、前週比 100%と横ばいであった。例年同時期の定点当たり平均値*(0.4)の約 4.8 倍であった。年齢群別は 4 歳から 7 歳が全体の約 6 割を占めた。

【ヘルパンギーナ】

報告数は 18 人(1.3)で、前週比 40%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(2.6)の約 0.5 倍であった。年齢群別は 6 ヶ月から 2 歳が全体の半数を占めた。

* 新型コロナウイルス感染症流行前 5 年間(2015—2019)の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均値

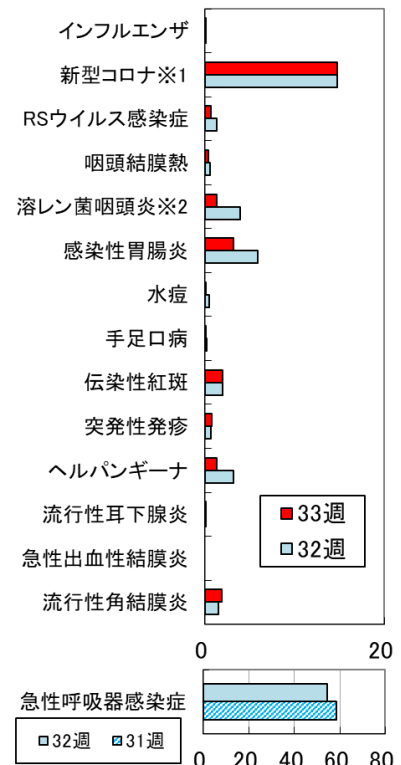
新型コロナウイルス感染症 発生状況



※2025 年(新定点数報告)の第 14 週までは、
 新定点医療機関数をもとに算出した参考値

※新型コロナウイルス感染症の 2023 年第 1 週
 ～第 18 週分のデータは、定点医療機関から
 の報告数をもとに算出した参考値

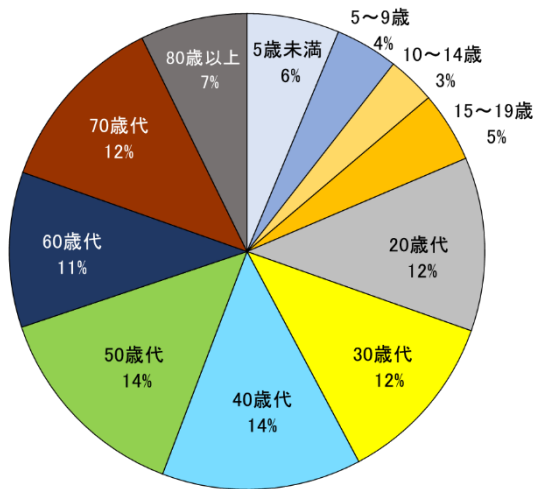
《前週との比較》



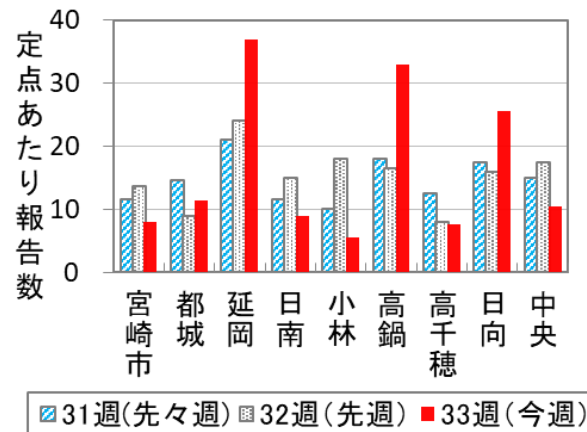
※1 新型コロナウイルス感染症

※2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

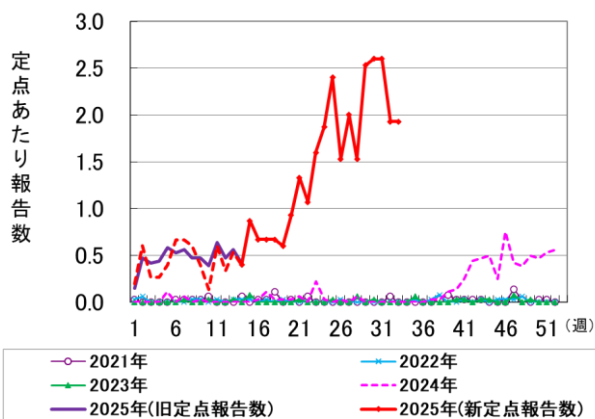
新型コロナウイルス感染症 年齢群別グラフ(第 33 週)



新型コロナウイルス感染症 保健所別推移(3 週分)

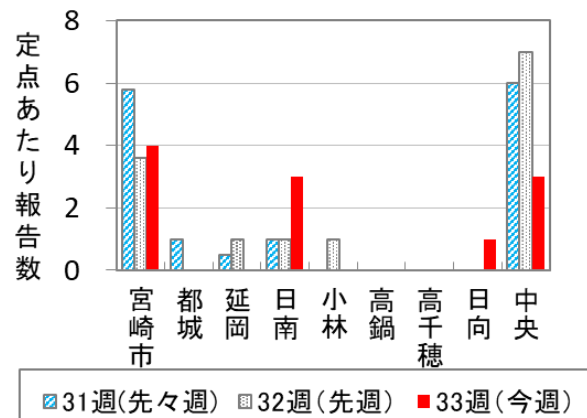


伝染性紅斑 発生状況

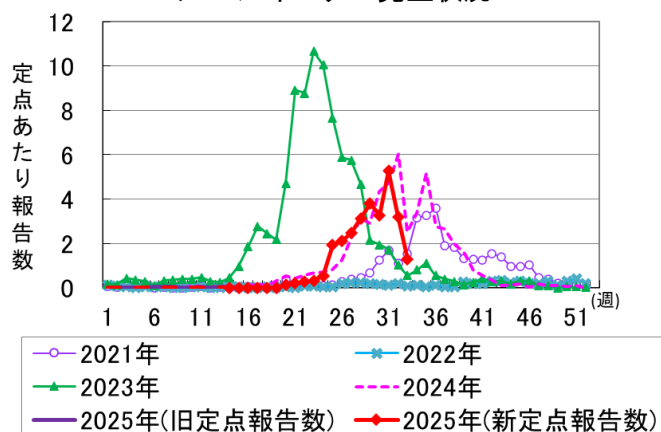


※2025 年(新定点数報告)の第 14 週までは、
 新定点医療機関数をもとに算出した参考値

伝染性紅斑 保健所別推移(3 週分)

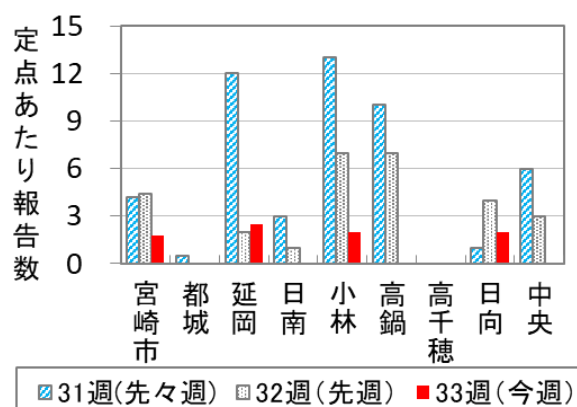


ヘルパンギーナ 発生状況



※2025 年(新定点数報告)の第 14 週までは、
新定点医療機関数をもとに算出した参考値

ヘルパンギーナ 保健所別推移(3 週分)



★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎：報告数は 4 例(定点当たり 0.6)で、宮崎市(2 例)、高鍋(2 例)保健所から報告があった。年齢は 5～9 歳が 3 例、0～4 歳が 1 例であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患
宮崎市	伝染性紅斑(4.0)
都城	なし
延岡	なし
日南	伝染性紅斑(3.0)
小林	なし
高鍋	水痘(1.0)
高千穂	なし
日向	なし
中央	伝染性紅斑(3.0)

※流行警報レベル開始基準値※

・伝染性紅斑(2)

※流行注意報レベル基準値※

・水痘(1)

※流行警報レベル開始基準値、流行注意報レベル基準値は令和6年度まで運用した参考値です。

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部）

★急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection : ARI)

(2025 年第 32 週:8 月 4 日～8 月 10 日搬入分)

検出病原体			検出数
インフルエンザウイルス	A型	AH1pdm09	0
		AH3	0
	B型	ビクトリア系統	0
		山形系統	0
新型コロナウイルス			9
RSウイルス	A型		0
	B型		0
パラインフルエンザウイルス	1型		0
	2型		0
	3型		0
	4型		0
ヒトメタニューモウイルス			0
ライノウイルス			1
エンテロウイルス			0
アデノウイルス			0
検出せず※2			5
受付検体数			15

○ 急性呼吸器感染症 (ARI) ※¹サーベイランス検体について、急性呼吸器感染症サーベイランス遺伝子検査マニュアルに従い、検査を実施した。

※¹ 急性呼吸器感染症 (ARI) : 咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか 1 つ以上の症状を呈し、発症から 10 日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

※² 左記のいずれのウイルスも検出されなかった検体数を計上

(細菌・ウイルスについては 2025 年 8 月 18 日までに検出分)

★細菌

報告なし

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
Adeno virus 1 [※]	0～4歳	男	2025.07.01	急性気管支炎、39.3℃、扁桃炎、下痢	鼻汁	2025.08.15
Human parecho virus A5	0～4歳	男	2025.06.17	感染性胃腸炎、下痢	便	2025.08.15
Human parecho virus A5	0～4歳	男	2025.06.21	感染性胃腸炎、下痢	便	2025.08.15
Parainfluenza virus 3	0～4歳	女	2025.07.09	突発性発疹、40℃、紅斑	咽頭ぬぐい液	2025.08.18

※ ARI 病原体定点から検出されたウイルスのうち、分離されたウイルスも再掲

○県内で初めてヒトパレコウイルス A5 型が検出、分離された。ヒトパレコウイルス A5 型は報告数が少なく病原性については不明である。分離されたウイルスは国内で初めて分離された札幌市の株と相同性が高かった。この株はヒトパレコウイルス A3 型との組み換えウイルスで、2018 年から 2019 年にかけてヨーロッパ、日本、オーストラリアで流行していた可能性も示唆されており、今後も感染の流行に注視が必要である。

🇯🇵 全国 2025 年第 32 週の発生動向

□ 全数報告の感染症

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	218 例				
3類感染症	細菌性赤痢	1 例	腸管出血性大腸菌感染症	155 例		
4類感染症	E型肝炎	9 例	A型肝炎	3 例	コクシジオイデス症	1 例
	重症熱性血小板減少症候群	8 例	チクングニア熱	1 例	つつが虫病	1 例
	デング熱	1 例	日本紅斑熱	21 例	レジオネラ症	19 例
5類感染症	アメーバ赤痢	4 例	ウイルス性肝炎	4 例	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	16 例
	急性弛緩性麻痺	1 例	急性脳炎	3 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	2 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	27 例	後天性免疫不全症候群	6 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	5 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	25 例	水痘(入院例)	7 例	梅毒	169 例
	播種性クリプトコックス症	2 例	破傷風	3 例	百日咳	3211 例
	麻しん	9 例				

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数(急性呼吸器感染症除く)は前週比 102%とほぼ横ばいであった。なお、前週と比較して増加した主な疾患は新型コロナウイルス感染症、RSウイルス感染症、伝染性紅斑及びマイコプラズマ肺炎で、減少した主な疾患はヘルパンギーナであった。また、急性呼吸器感染症の報告数は前週比 99%とほぼ横ばいであった。

新型コロナウイルス感染症の報告数は 23,126 人(6.1)であった。宮崎県(14.7)、鹿児島県(13.5)、佐賀県(11.8)からの報告が多く、年齢群別では 60 歳以上が全体の約 3 割を占めた。

伝染性紅斑の報告数は 4,756 人(2.1)であった。例年同時期の定点当たり平均値*(0.3)の約 6.5 倍であった。山形県(5.8)、大分県(4.6)、秋田県(4.1)からの報告が多く、年齢群別では 3 歳から 6 歳が全体の約 6 割を占めた。

* 新型コロナウイルス感染症流行前 5 年間(2015－2019)の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均値

月報告対象疾患の発生動向 <2025 年 7 月>

□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は34人(2.6)で、前月比117%と増加した。また、昨年7月(3.2)の約0.8倍であった。

《疾患別》

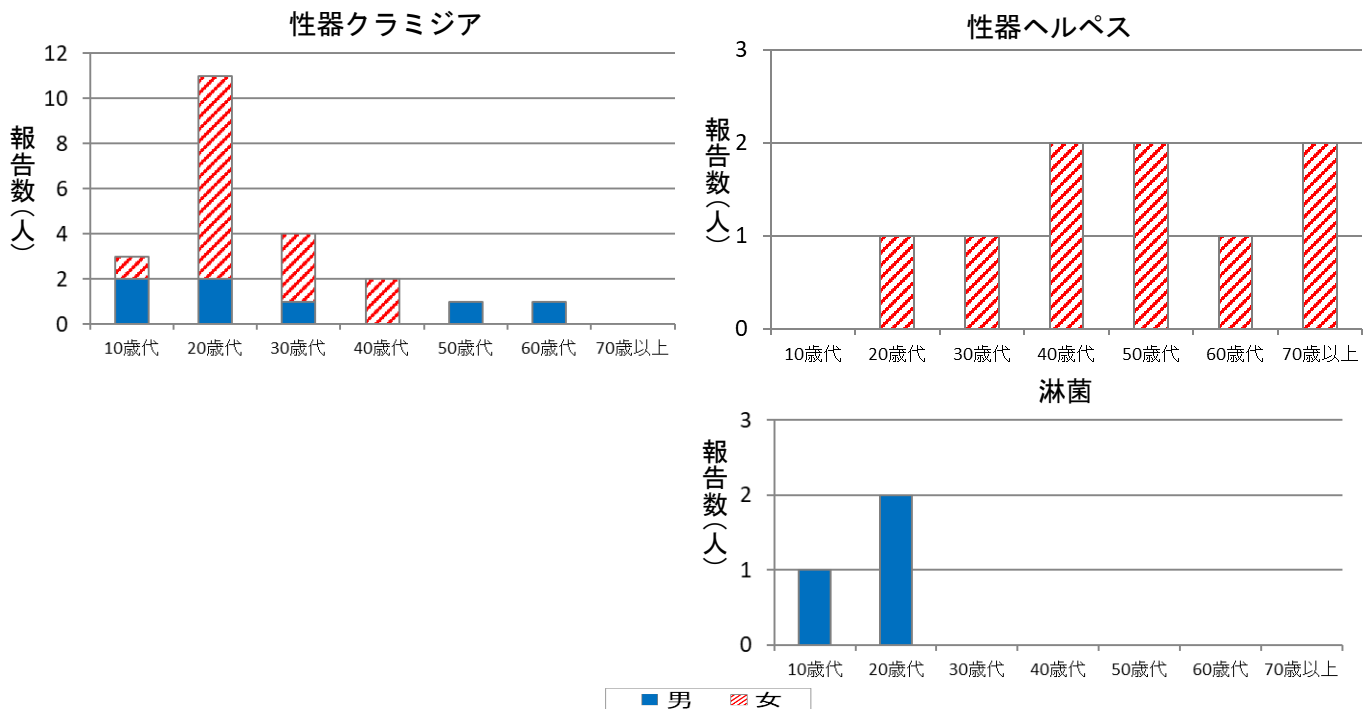
○性器クラミジア感染症：報告数22人(1.7)で、前月の約1.6倍、昨年7月と同率であった。

20歳代が全体の半数を占めた。(男性7人・女性15人)

○性器ヘルペスウイルス感染症：報告数9人(0.69)で、前月及び昨年7月の0.9倍であった。
(女性9人)

○尖圭コンジローマ：報告なし。

○淋菌感染症：報告数3人(0.23)で、前月と同率、昨年7月の0.5倍であった。(男性3人)



【全国】

定点医療機関からの報告総数は4,926人(5.0)で、前月比103%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,588人(2.6)で前月比101%、性器ヘルペスウイルス感染症946人(0.96)で前月比101%、尖圭コンジローマ610人(0.62)で前月比103%、淋菌感染症782人(0.80)で前月比110%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は14人(2.0)で、前月比127%と増加した。また、昨年7月(3.7)の約0.5倍であった。

《疾患別》

○メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数14人(2.0)で、前月の約1.3倍、昨年7月の約0.6倍であった。70歳以上が全体の約7割を占めた。

○ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。

○薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】

定点医療機関からの報告総数は1,380人(2.9)で、前月比111%と増加した。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,337人(2.8)で前月比112%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症30人(0.06)で前月比75%、薬剤耐性緑膿菌感染症13人(0.03)で前月比150%であった。

疾病名		第32週	第33週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	3	3		1		1					1
	定点当り	0.11	0.11	0.00	0.33	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50
新型コロナウイルス感染症	報告数	412	398	71	34	111	18	11	66	15	51	21
	定点当り	14.71	14.74	7.89	11.33	37.00	9.00	5.50	33.00	7.50	25.50	10.50
RSウイルス感染症	報告数	20	9	4		4						1
	定点当り	1.33	0.64	0.80	0.00	2.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00
咽頭結膜熱	報告数	8	5	3					1		1	
	定点当り	0.53	0.36	0.60	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	1.00	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	59	19	5		5			2	5		2
	定点当り	3.93	1.36	1.00	0.00	2.50	0.00	0.00	2.00	5.00	0.00	2.00
感染性胃腸炎	報告数	89	45	13	3		5	7		1	12	4
	定点当り	5.93	3.21	2.60	3.00	0.00	5.00	7.00	0.00	1.00	12.00	4.00
水痘	報告数	7	1						1			
	定点当り	0.47	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	3	1									1
	定点当り	0.20	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00
伝染性紅斑	報告数	29	27	20			3				1	3
	定点当り	1.93	1.93	4.00	0.00	0.00	3.00	0.00	0.00	0.00	1.00	3.00
突発性発しん	報告数	10	10	6			2				2	
	定点当り	0.67	0.71	1.20	0.00	0.00	2.00	0.00	0.00	0.00	2.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	48	18	9		5		2			2	
	定点当り	3.20	1.29	1.80	0.00	2.50	0.00	2.00	0.00	0.00	2.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	2	1									1
	定点当り	0.13	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	9	11	9	2							
	定点当り	1.50	1.83	3.00	1.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数	4	4	2					2			
	定点当り	0.57	0.57	2.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

2025年 第32週(08月04日～08月10日)												
		第31週	第32週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
急性呼吸器 感染症	報告数	1641	1521	401	128	214	108	146	95	120	161	148
	定点当り	58.61	54.32	44.56	32.00	71.33	54.00	73.00	47.50	60.00	80.50	74.00

33週 ARI定点:27、小児科定点:14(ARI定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7
32週 ARI定点:28

●全数把握対象疾患累積報告数(2025年 第1週～33週 保健所受理分)

2類感染症	結核	80例(1)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	19例				
4類感染症	E型肝炎	2例	A型肝炎	1例	重症熱性血小板減少症候群	2例
	つつが虫病	8例	デング熱	2例	日本紅斑熱	19例(2)
	レジオネラ症	5例				
5類感染症	アメーバ赤痢	2例	ウイルス性肝炎	2例	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1例
	急性脳炎	2例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	13例	後天性免疫不全症候群	3例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2例(1)	侵襲性肺炎球菌感染症	19例	水痘(入院例)	3例(1)
	梅毒	89例(3)	播種性クリプトコックス症	1例	破傷風	2例
	百日咳	1,290例(21)				